

実施に当たって

評価は、目標があって初めて成立する活動です。

今まで述べてきたように—

学校自己評価が機能するためには、教職員が、自校の学校教育目標に基づく具体的な「重点目標」と、それを達成するための「重点活動」を明確にすることが大事です。

学校自己評価を行うことにより、目指す学校の姿が明確になり、子どもの個性や地域の環境を生かした「その学校らしさ」をつくり出すことができます。

学校自己評価は、教職員のみで進めることはできません。児童生徒、保護者や地域の人々などの協力が必要です。

学校自己評価を行うことにより、児童生徒を大切にしたり、保護者や地域の人々とともに教育活動を行う、「開かれた学校」をつくり出すことができます。

学校自己評価は、学校教育目標に基づく「その学校らしさ」と保護者や地域の人々とともに歩む「開かれた学校」をつくり出します。



学校自己評価を進めることにより、子どもたちに、「確かな学力」が身に付き、ともに生きる喜びや感動が生まれる「楽しい学校」をつくり出すことができるのです。

この冊子は、学校自己評価を進めるための手引です。

各学校が、創意工夫を生かした「学校自己評価」を行い、よりよい学校づくりを進めてほしいと願っています。